

平成 23 年度第 2 回常務理事会議事録

日 時：平成 23 年 7 月 29 日（金）15：00～17：35

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

理 事：岩下 光利、嘉村 敏治、木村 正、上妻 志郎、峯岸 敬、八重樫伸生、吉川 裕之

監 事：武谷 雄二、和氣 徳夫

第 63 回学術集会会長：星合 昊

第 64 回学術集会会長：平松 祐司

第 65 回学術集会会長：櫻木 範明

理事会内委員会委員長：海野 信也、竹下 俊行、星 和彦、吉村 泰典

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、佐藤 豊実、

下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、中村 和人、阪埜 浩司、藤原 浩、

増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 11 名のうち、10 名が出席（吉川 史隆理事は欠席）し、定足数に達したため、小西 郁生理事長が開会を宣言した。小西 郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、出席監事の計 3 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 23 年度第 1 回常務理事会議事録（案）の確認

原案通り、承認した。

II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総 務（岩下 光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 特になし

(2) 東日本大震災に居住される会員への会費免除について [資料：総務 1]

岩下 光利理事「医会ではすでに免除対応を進めており、そこでの免除基準と概ね一致している。」
特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

(3) 東日本大震災での医師派遣費用について

7 月末時点の本会からの物的支援、人的支援費用概算は約 1,280 万円となる見込み。一方、本会あての海外などからの義援金は 1,188 万円であり、医会から配分された義援金(1,500 万円)が余剰となる場合について検討しておく必要がある。 [資料：総務 2]

岡井 崇副理事長「一般の震災対策復興委員会で、少なくとも来年 3 月までは石巻赤十字病院への人的支援を続けることが決まったので、これに対する費用はまだ必要である。」

小西 郁生理事長「本会で義援金を使う予定があるので、このままキープしておくこととしたい。」
特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

(4) 定時総会での第4議案を巡る馬場代議員の質問について [資料：総務3-1、3-2]

総会議事録を今後ホームページに掲載することについては運営委員会で検討することとしたい。

小西 郁生理事長「議事録案を見るとお分かり頂けるように、質問に対し嘉村 敏治理事からほぼ完璧な回答がなされており、また馬場 一憲代議員も納得されているようなので本件は決着したと考えて良いと思う。」

岩下 光利理事「総会議事録をホームページに掲載する場合、発言者に確認を求めるか、議事録署名人の確認で良しとするか、またサマリーにするか一言一句記載するか、さらに会員専用ページに掲載するか一般ページか、などいくつかの検討課題がある。」

矢野 哲幹理事長「馬場代議員だけでなく他の会員からもHP掲載の要望があったが、質疑応答は細かい内容もあるので、会員専用ページに掲載するので良いと思う。」

岡井 崇副理事長「総会での議論の結果は一般に広く公開すべきだが、議論内容は会員までで良いと思う。」

嘉村 敏治理事「総会の答弁は口頭での短いやりとりなので誤解を生まないため、載せるなら会員専用ページで良いし、むしろ従来通りの機関誌公表だけでも良いように思う。」

小西 郁生理事長「従来通りとの意見もあるし、一方で迅速性や正確性も求められている。今回は機関誌での公表とし、来年の総会内容をどう公表していくかは運営委員会で協議して頂くことにしたい。」

(5) 公開シンポジウム (8月28日) について [資料：総務4]

星合 昊第63回学術集会長「ポスターの印刷に掛かりたいが、厚生労働省や読売新聞社の後援がまだ固まっていないので、進行状況の確認をお願いしたい。」

(6) 「食材中の放射性セシウムについて心配しておられる妊娠・授乳中女性へのご案内」をホームページに掲載した。 [資料：総務5]

岩下 光利理事「放射線問題については一般の方々からの問い合わせもあるので、震災対策委員会が中心になって周産期委員会などからのメッセージを発信していくことになる。」

(7) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

7月19日現在、入金済5,173冊、校費支払のため後払希望 9冊。

②三國 雅人会員および牧野 恒久名誉会員からの依頼について

三國 雅人会員から尿由来ゴナドトロピン製剤へのプリオン蛋白混入の論文報告への本会の見解を求めてきた件について、生殖・内分泌委員会で検討して作成した厚生労働省あての手紙及び、牧野 恒久名誉会員がヒト健康への影響が懸念される数種類の化学物質が胚培養液に含まれていることへの対応を本会に求めてきた件について、同じく生殖・内分泌委員会が作成した牧野 恒久先生あての手紙の原案が呈示された。 [資料：総務6]

峯岸 敬理事「尿由来ゴナドトロピン製剤の問題点と薬剤としての利便性について考慮する必要があり、インフォームドコンセントという対応を含めて厚生労働省に確認の手紙を出すことにした。」

海野 信也委員長「一つの解決法はリコンビナント製剤の保険適用であり、その要望を出すという判断はある。ただ適用を受けるまでの期間をどう対応するかという問題があり、学会の判断としてインフォームドコンセントを取って投与するという事はありえるのではないかな。」

木村 正理事「この手紙の内容での対応が良いと思う。リコンビナント製剤の保険適用を進めて現在の薬を止めるように動くにはもう一段のエビデンスが必要だし、また現実には現場はかなり混乱する。当局と問題点の認識を共有することからスタートしてはどうか。」

吉村 泰典委員長「供給力や価格から全てリコンビナント製剤にすることは難しい。日本では治験もまだであるため、未承認薬として申請できる状況ではない。厚生労働省に我々の認識を示す段階だろう。」

小西 郁生理事長「厚生労働省への手紙は原案通り出すことにしたい。胚培養液についてはどうか。」
峯岸 敬理事「牧野 恒久名誉会員のご意見を受けて、ART で用いられる培養液の胎児に対する影響の可能性を評価して行くこととした。」
特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

化学療法中のエリスロポイエチン製剤使用について、杉山 徹先生がまとめられた意見を日本婦人科腫瘍学会と連名で厚生労働省あてにパブリックコメントとして提出した。 [資料：総務 7]

吉川 裕之理事「卵巣癌化学療法時の貧血において、ESA 製剤の必要性や利点は多い。予後悪化に対する潜在リスクから使用を制限する動きがあるが、これも基準に沿った適正使用によりリスク回避が可能としている。婦人科では必要性高く認めてほしいということで意見を出した。」

(ハ) 周産期委員会

(1)同委員会の「周産期における医薬品・医療機器の諸課題に関する小委員会」竹田 省委員長が4つの未承認薬の総括表につき取り纏めており、7月23日に厚生労働省に提出した。

(2)神戸大学山田 秀人先生から、厚生労働科学研究補助金「先天性サイトメガロウイルス感染症対策のための妊婦教育の効果の検討、妊婦・新生児スクリーニング体制の構築及び感染新生児の発症リスク同定に関する研究」を進めるにあたり、本会に対し、アンケート調査実施への支援・協力依頼があった。 [資料：総務 7-1]

海野 信也委員長「依頼があれば周産期委員会としても協力する旨、回答した。」

(ニ)女性ヘルスケア委員会 特になし

[II. 官庁関係]

(1) 厚生労働省

①厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課から、「母体保護法の一部を改正する法律の施行について」通知があった。 [資料：総務 8]

②厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課から、平成 23 年 11 月に福井市で行われる「健やか親子 21 全国大会」の開催案内があった。 [資料：総務 9]

③厚生労働省医薬食品局安全対策課より「塩酸ラベタロール錠の妊産婦への投与についての要望」および「ニフェジピンの妊娠 20 週以降の妊産婦への投与について」、提出された改訂案が了承され、本会 HP で会員に周知した。 [資料：総務 10-1、10-2]

④厚生労働省医薬食品局安全対策課より、今般作成された「医薬品・医療機器等安全性情報」の周知依頼があり、本会機関誌に掲載した。 [資料：総務 11]

[III. 関連団体]

(1) 日本医学会

①11月16日に開催される第2回日本医学会分科会利益相反会議に、各分科会の利益相反委員会委員長の出席を求めてきた。本会からは平松コンプライアンス委員会委員長に出席頂く予定である。

[資料：総務 12]

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

②日本医学会分科会利益相反会議に関連して、利益相反対応の現状アンケートへの協力依頼があった。利益相反担当者および学会雑誌編集長が対象である。

[資料：総務 13]

③日本医学会の法人化へ向けた検討委員会が発足することになり、本会に委員1名の推薦を求めてきた。

任期は平成 25 年 3 月まで、可能であれば東京在住の先生をお願いしたいとのことであり、本会としては岩下 光利理事を推薦したい。[資料：総務 14]

岡井 崇副理事長「日本医学会の法人化とは医師会から独立することであり、日本医療体制の改革につながる。資金も自ら加盟学会から集めるといふ動きの出発点である。」

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

(2) 日本産婦人科医会

同会は 6 月 29 日に厚生労働省医政局長あてに、「助産所における嘱託医の包括指示による医療行為について」との抗議文を提出した。 [資料：総務 15]

岩下 光利理事「抗議の元になった班研究では助産師の医療行為について研究していくというのが真意。一般病院等では助産師の役割の拡大議論もあり、本会としては推移を見守ることで良いと思う。」

海野 信也委員長「病院と助産所とは助産師さんの期待役割は違う。院内助産については本会も推進してきたが、助産所については厚生労働省でもコンセンサスがないうか、一部で進める話が出て来たので医会が反応したということ。こうした背景を理解した上で状況を見守っていくということではないか。」

佐川 典正議長「助産師のカリキュラムにすでに会陰縫合は入っているのではないか。静観だけで良いのか。」

岡井 崇副理事長「助産師の業務範囲を広げてもらうという流れのなか、開業助産師が嘱託医の包括指示で医療行為を行えるようにするという進め方に医会は反対している。」

岩下 光利理事「院内助産師にエキスパート資格を設置する動きが日本助産師会にあるが、医師の協力などについて今後協議していくなかで、本会の対応も必要になると思われる。」

海野 信也委員長「これは厚生労働省の研究のなかで検討されている。資格認定には日本周産期・新生児医学会に協力してほしいとの動きもある。院内助産の資格から、最終的には助産所の開業資格にして行きたいのではないかとと思う。」

和氣 徳夫監事「いつのまにか医師を排除して助産師だけで進められるようになってしまわないよう注意が必要である。」

小西 郁生理事長「海野 信也先生には本件の今後の動きをウォッチしてもらいたい。」

(3) 日本外科学会

同学会女性外科医支援委員会より、女性医師がどれだけ学会活動に関与しているかの実態把握アンケートへの協力依頼があり、回答した。[資料：総務 16]

(4) 日本小児科学会

同学会は厚生労働大臣あてに「B 型肝炎ワクチンの添付文書改訂についての要望書」を作成したが、本件については、周産期委員会が 7 月 23 日に厚労省に提出した 4 つの未承認薬の総括表に B 型肝炎ワクチンが含まれている。 [資料：総務 17]

(5) 日本婦人科腫瘍学会

「子宮頸がん治療ガイドライン 2011 版」の後援依頼を受領した。同ガイドラインについては婦人科腫瘍委員会でも検討し、特に問題がなかったため、後援依頼を応諾した。

(6) 予防接種推進専門協議会

同会では、「東日本大震災に伴う予防接種の取扱いについての提言」を厚生労働大臣あてに提出する予定であり、本会に参加団体としての了解を求めている。[資料：総務 18]

特に異議なく、本件は全会一致で参加が承認された。

(7) 医薬品医療機器総合機構

「独立行政法人 医薬品医療機器総合機構が行う審査等の手数料について」および「医薬品・医療機器薬事戦略相談事業の実施について」の通知が送られてきた。[資料：総務 19]

(8) 日本医療機能評価機構

同機構より「重度脳性麻痺児の予後に関する医学的調査報告書」が送付されてきた。[資料：総務 20]

(9) 禁煙推進学術ネットワーク

同ネットワークから「特定健診における禁煙の勧奨・支援のための制度化に関する要望書」、「ニコチン依存症管理料の算定要件等の見直しならびにニコチン依存症指導料の新設に関する要望書」、「すべての医科系大学病院敷地内を全面禁煙とすることの要望書」、「地方自治体の建物内の喫煙室を撤去し、建物内を全面禁煙とするお願い」、「すべての職場を全面禁煙とする労働安全衛生法の改正に関する要望書」、「JR6 社あて要望書：新幹線と寝台列車の全面禁煙化とホームを含む駅構内全面禁煙化の再度のお願い」、「関西私鉄 4 社あて要望書：特急列車とホームを含む駅構内の全面禁煙化のお願い」についての参加依頼があった。最初の 2 つの要望書については既に参加としたが、後の 5 要望書についての対応を決める必要がある。[資料：総務 21-1、21-2、21-3、21-4、21-5、21-6、21-7]

木村 正理事「かなりアグレッシブな内容になっているように思う。」

吉川 裕之理事「必ずしもこのネットワークの動きに合わせる必要はないが、産科なので禁煙に対しては本会独自のアクションは必要になる。本会の責任を考えると、この要望書の一字一句に至るまで賛成というわけにはいかないし、データの検証なども必要となる。」

岩下 光利理事「禁煙の主旨は本会も賛成であるが、個々の要望については更に検討が必要なので保留にしたいということかどうか。」

武谷 雄二監事「要望書は対外的に提出されるものであり、本会の姿勢はきちんと示す必要がある。全会一致で賛成できないならば保留ではなく、不参加と示すべきである。」

小西 郁生理事長「主旨に賛成ながら今回は参加しないということで対応したい。」

[IV. その他]

(1) 「女性のための漢方セミナー」(平成 23 年 9 月 7 日：新潟県民会館、9 月 27 日：アクロス福岡) への後援依頼を、セミナー主催者の新潟総合テレビ、テレビ西日本から受領した。経済的な負担はなく、これを応諾したい。

(2) NP0 法人 Fine から、「Fine 祭り 2011」(平成 23 年 11 月 3 日、日経ホールにて開催) の後援名義使用許可依頼が提出された。経済的な負担はなく、これを応諾したい。

2) 会 計 (岡井 崇副理事長)

(1) 新体制がスタートすることにより、今年度予算の補正を行う必要がある。については、新たに設置された委員会には予算申請を事務局あてに提出して頂く予定である。

(2) 才和監査法人より平成 23 年度監査見積書が提出された。平成 22 年度と同額である。平成 23 年度についても同監査法人との監査契約を継続したい。[資料：会計 1]

星合 昊第 63 回学術集会長「学術集会の会計監査が予定されているが、コンベンション会社で行う場合も学術集会長や会計管理責任者に事前に連絡を取って進めてほしい。」

特に異議なく、監査契約の継続について全会一致で承認された。

3) 学 術 (峯岸 敬理事)

(1) 学術委員会関連

- ① IS Award 選考委員会を 8 月 29 日に開催する予定である。
- ② 優秀演題賞選考委員会を 8 月 30 日に開催する予定である。

(2) 他団体特別賞推薦依頼について

- ① 「研究業績褒章 (上原賞)」「平成 23 年度神澤医学賞」「朝日賞」各理事、学術委員会委員に推薦を依頼した (推薦締切 8 月 1 日)。候補者が推薦された場合、通信で選考を行う予定である。

(3) プログラム委員会関連 特になし

4) 編 集 (上妻志郎理事)

(1) 会議開催

7月29日に和文誌編集会議ならびに JOGR 全体編集会議を開催した。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: 2011 年投稿分 (平成 23 年 6 月末現在)

投稿数 512 編 (うち Accept39 編、Reject175 編、Withdrawn/Unsubmitted 79 編、Under Revision74 編、Under Review 142 編、Pending 1 編、Expired 1 編)

上妻 志郎理事「インパクトファクターが今回 0.86 と前回の 0.71 から上昇している。」

(3) 担当理事、幹事の解委嘱

理事: 片渕 秀隆先生、吉川 史隆先生 幹事: 多賀谷 光先生、藤原 浩先生
特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

(4) JOGR AE 委嘱について [資料: 編集 1]

上妻 志郎理事「今回から理事長名での委嘱状を出すようにしたい。」
特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

5) 渉 外 (木村 正理事)

(1) 会議開催

7月29日、常務理事会終了後、第1回渉外理事・幹事会議を開催の予定である。

[FIGO 関係]

(1) FIGO Executive Board Meeting (6月12~13日、於: メキシコシティ) 報告 [資料: 渉外 1]

(2) FIGO Working Group for the Prevention of Unsafe Abortion - Combination of Mifepristone and Misoprostol for the Termination of Pregnancy を受領し、これに対する本会の意見を FIGO President へ送付した。[資料: 渉外 2、2-1]

木村 正理事「FIGO には『自国の状況や規制にあわせる』との一文を入れるよう申し入れたが、先方からその意見を考慮するとの回答があった。」

(3) FIGO Award In Recognition of Women Obstetricians/Gynaecologists の推薦依頼があった。
[資料: 渉外 3]

木村 正理事「この賞は先進国を余り対象としていないようだが、強く推したい場合は推薦はできるようである。今回は見送りとして良いか。」

落合 和徳副理事長「このような推薦依頼は定期的に来るので、常に気を付けておく必要はある。」
特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

(4) FIGO committee for women's sexual & reproductive rights- Medical school curriculum について、会員から特段の意見がなかったので、賛成の回答を送った。[資料: 渉外 4]

[AFOG 関係]

(1) 落合副理事長を次期 AFOG Vice President として AFOG へ推薦した。AOCOG2011 会期中の General Assembly にて投票が行われる。

[ACOG 関係]

(1) 7月1日、Hal C. Lawrence III, MD が ACOG Executive Vice President に就任した。

[SOGC 関係]

(1) The 67th Annual Clinical Meeting of SOGC (6月21~25日、於: バンクーバー) にて、落合 和徳副理事長が東日本大震災についてプレゼンテーションを行い、SOGC からの義援金について本会か

らの感謝状を送った。

[KSOG 関係]

(1) The 16th Seoul Symposium & the 97th Annual Congress of KSOG (9月29日～10月1日、於：ソウル) について、KSOGより小西 郁生理事長をはじめ本会役員数名が招待された。

6) 社 保 (吉川 裕之理事)

(1) 会議開催

10月21日常務理事会終了後、第2回社保委員会を開催の予定である。

(2) 厚生労働省「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の第2回開発要望募集」について、本会から要望総括表を提出した。[資料：社保1]

吉川 裕之理事「要望の優先順位の付け方については、他学会のやり方も調べて検討したい。」

(3) 「第4版 産婦人科医のための社会保険 ABC」正誤表について

(4) 本会選出の外保連委員を以下の通り委嘱する。

- ・実務副委員長：西井 修副委員長
- ・手術委員：西井 修副委員長、久布白兼行委員
- ・処置委員：秋山 敏夫委員
- ・検査委員：宮崎亮一郎委員
- ・規約委員：宮崎亮一郎委員
- ・広報委員：西井 修副委員長
- ・麻酔委員：海野 信也委員
- ・顧問：松田 静治委員
- ・実務委員会要望順位づけ検討ワーキンググループ委員：佐藤豊 実委員

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

(5) 本会選出の内保連委員を以下の通り委嘱する。

- ・高松 潔委員 (内保連女性診療科関連委員会委員長)
- ・白須 和裕委員
- ・田原 隆三委員
- ・橋口 和生委員

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

(6) 落合 和徳副理事長に日本医師会疑義解釈委員を委嘱する。

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

吉川 裕之理事「内保連、外保連ともに現在の申請状況などを情報をわかりやすくまとめて、専門委員会からだけでなく広く会員の先生からも意見が出てくる体制を作り医療改善に役立てたい。」

和氣 徳夫監事「本会の要望を実現するために関連学会に集まってもらっているケースでは、本会のリーダーシップが重要である。」

吉川 裕之理事「以前各学会を代表して参加した先生が現在は社保を担当していない場合は、各学会に確認するなど、本会が総括する姿勢で臨んでいる。」

海野 信也委員長「未承認薬で開発要望を出したへパリンカルシウムは、自己注射を追加したものである。」

平松 祐司第64回学術集会長「血糖自己測定について、日本糖尿病妊娠学会でも社保担当を決めて実現したいと考えているが、これについてのアドバイスはあるか。」

吉川 裕之理事「今後ヒアリングに入るが、血糖自己測定は産婦人科からの申請の中で優先度の高い項目となっている。」

7) 専門医制度（吉川 史隆理事欠席につき、梶山 広明主務幹事）

- (1) 平成 23 年度専門医認定二次審査
東京会場（日本都市センター）と大阪会場（千里ライフサイエンスセンター）で、7 月 30 日に筆記試験、31 日に面接試験を実施する。
- (2) 地方委員会宛に専門医認定一次審査結果通知書、面接担当者に案内を送付した（7 月 4 日）。
また、一次審査合格者に対し審査通知と二次審査受験票を、再申請者に対し二次審査受験票を送付した（7 月 4 日）。
- (3) 専攻医指導施設に対し施設の現状報告の調査用紙を送付した（7 月 11 日）。[資料：専門医制度 1]
- (4) 日本専門医制評価・認定機構より 8 月 8 日開催の「研修施設訪問調査及び専門医制度の枠組みに関する協議について」の案内を受領した（6 月 30 日）。吉川 史隆委員長が出席する予定である。

8) 倫理委員会（落合和徳委員長）

- (1) 本会の見解に基づく諸登録（平成 23 年 6 月 30 日）
 - ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：44 研究
 - ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：587 施設
 - ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：587 施設
 - ④顕微授精に関する登録：509 施設
 - ⑤非配偶者間人工授精に関する登録：16 施設
- (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について
7 月 14 日現在申請 235 例 [承認 204 例、非承認 4 例、審査対象外 18 例、取り下げ 1 例、照会 2 例、審査中 6 例]（承認 204 例のうち 7 例は条件付）
- (3) 会議開催
 - ①平成 23 年度倫理委員会通信会議[第 1 回]を 7 月に開催した。
 - ②平成 23 年度第 1 回着床前診断に関する審査小委員会を 8 月 23 日に開催する予定である。
 - ③平成 23 年度第 1 回倫理委員会集合会議を 9 月 12 日に開催する予定である。
- (4) 委員の追加委嘱について
着床前診断に関する審査小委員会： 久具 宏司先生
特に異議なく、本件は全会一致で承認された。
- (5) 聖マリアンナ医科大学からの『「卵巣凍結保存－休眠原始卵胞活性化－卵巣自家移植－体外受精・胚移植」による新たな不妊治療の開発』の登録申請について [資料：倫理 1]

落合 和徳副理事長「当該施設での臨床研究については、同施設の倫理委員会の判断を尊重したい。当該施設の判断に本会が意見を出すことは、その研究に一定の責任を持つことになり、技術の善し悪しを判断する場合は判断基準が必要になる。厚労省の指針に基づいて行われる臨床研究で、当該施設の倫理委員会をクリアしたものは、基本的には認めて行く方針で臨みたい。」

吉川 裕之理事「登録申請は倫理委員会が担当するのか、新設の臨床研究審査委員会が担当するのか。また施設の倫理委員会と学会の審査はどちらが先に行う方がよいのか。」

落合 和徳副理事長「登録申請は当面は倫理委員会が対応するが、今後議論していけばよい。後者は課題によって違うが、各施設の倫理委員会で検討し切れない専門性の高い課題について当該施設から意見を求められた場合は対応するが、当該施設がまず決定することが基本線になる。」

- (6) セントマザー産婦人科医院からの「円形精子細胞に関する臨床応用」の登録申請について回答文書

を発出した。

(7) 出生前診断関連新聞記事

7月6～14日 読売新聞連載「医療ルネサンス 出生前診断」 [資料：倫理2]

7月22日 読売新聞記事 「出生前診断で中絶倍増」 [資料：倫理2-1]

(8) 卵子提供関連新聞記事

7月27日 朝日新聞記事 「卵子提供 海渡る日本女性」 [資料：倫理3]

9) 教育（八重樫伸生理事）

(1) 会議開催

八重樫伸生理事「来年の学術集会での第4回若手医師企画の打合せのスケジュールを調整している。」

(2) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

7月19日現在、入金済4,629冊、校費支払のため後払希望152冊。

八重樫伸生理事「今後これをPDF化して出したいとの要望があり、その方向で進めたい。また、来年のACOGへの派遣について参加者を募集している。」

平松 祐司第64回学術集会長「ACOGやSOGCに参加した人の数名が第64回学術集会のexchange programのキーパーソンになる予定であるが、そのメンバーを早く決めて連絡してほしい。」

八重樫 伸生理事「涉外と連携の上、早急に決定したい。」

10) 地方連絡委員会（落合 和徳副理事長）

対象47地方学会中、46学会の業務委託契約締結を完了した。

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（嘉村 敏治委員長）

(1) 会議開催 なし

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料：広報2]

ACOGにより8月1日から1年間の契約更新が承認され、ACOGへ年会費を送金した。

嘉村 敏治理事「円高の影響もあり、従来の8,500名から今年は9,500名がログイン可能となった。」

(4) ホームページアクセス状況について [資料：広報3]

(5) anetis 最新号について[資料：広報 無番]

嘉村 敏治理事「アネティスは今年は年4回発行予定。1,800施設に配布しており、発行部数30万部である。また8月発行のニュースレターは、理事長あいさつ、東日本大震災の対応を掲載することとし、exchange programについては次号掲載とするが、来年3月になるので少し前倒しで発刊したい。なおexchange programについてはホームページに早目に掲載する予定である。」

小西 郁生理事「今回は東日本大震災を中心に掲載することにしたい。」

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

2) 未来ビジョン委員会（吉村泰典委員長）

(1) 7月29日に第1回委員会を開催した。

吉村 泰典委員長「委員会の当面のテーマは、学術集会の業務委託と会計、2名増員する理事の選出方法、および専門医制度になる。専門医制度については現在ある制度以外の制度を作るべきとの意見も

あり、例えば指導医のような役割を考えるのかなどについて、専門医制度委員会で議論して本委員会に上げて頂く流れを考えている。」

小西 郁生理事長「指導医の資格を考えてはどうか、との意見も増えているようである。重要なテーマが多いので、中長期的な観点からよろしく願いたい。」

(2) 吉川 史隆先生を委員に追加委嘱した。

3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長)

(1) 7月27日に仙台で第1回委員会を開催し、翌日、被災地域を視察した。

岡井 崇副理事長「当面の対応は石巻地区への人的支援の継続だが、被災された医師の損害賠償への支援、危機を想定した情報管理体制の整備、放射線被曝についての情報発信、学会・医会でのメーリングリスト設定などを検討して行くことになった。また委員会では、被災地支援に行って頂いた若手医師を今度の学会で表彰してはどうか、との意見があり、これについてご意見を頂きたい。」

小西 郁生理事長「ボランティアで行って頂いた方をシンポジウムの中で顕彰することではどうか。」

海野 信也委員長「そうすると一般の方が参加しているが、その方がアピール性はあるかもしれない。」

岡井 崇副理事長「履歴書に書けるような何らかのクレジットをあげられるようにしたい。」

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2008」頒布状況について

7月20日現在、入金済 11,942 冊、後払希望 0 冊。

② 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について

7月19日現在、入金済 9,018 冊、後払希望 151 冊。

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

① 10月2日に開催される「産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編 2011 伝達講習会」に出席する先生の推薦依頼状を学会から都道府県連絡委員会委員に、医会から都道府県医会会長に送付した(7月11日)。

② 「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について

7月19日現在、入金済 8,706 冊、後払希望 50 冊。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長) 特になし

吉川 裕之理事「産婦人科診療ガイドラインは1年後にホームページにPDF化して公表されることになっている。」

また今回からガイドライン委員のCOIをチェックすることになっている。その情報は委員長に回して担当を決める時に考慮して頂くことになる。」

5) コンプライアンス委員会 (平松 祐司委員長)

7月6日にCOI申告書の提出を依頼した。(締切:8月1日)

6) 医療改革委員会 (海野 信也委員長)

(1) 平成23年度医療改革アクションプランについて [資料:医療改革1]

海野 信也委員長「本年度アクションプランにある、『第4回産婦人科動向意識調査』と『第5回大学病院産婦人科勤務医の待遇改善の現況に関するアンケート』を各施設、大学病院に送りたい。」

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

(2) 「これからのエネルギー政策の方向性について」提案について [資料：医療改革2]

海野 信也委員長「この提案についての考え方を付けて今回の資料としている。」

和氣 徳夫監事「今回の事故後の国のエネルギー政策はまだ定まっていないので『事故の重大性を考慮せよ』
と言うより『母子の健康増進を考慮したエネルギー政策を検討してほしい』とした方がよいのではないか。」

岩下 光利理事「『考慮することを要望する』という場合、だれに対して要望するのか。これはホームページ
に載せるのか。」

海野 信也委員長「当初は内閣への提出を考えていたが、ここでの議論によって考えたい。」

木村 正理事「前段の『その影響が長期にわたり持続することを学びつつある』とすると、今の被曝量で遺
伝的影響があると学会が認識していると受け取られて、被災地の方々に不安を与えることにならないか。」

落合 和徳副理事長「『環境汚染は深刻な影響を及ぼしている』と言い切ってよいだろうか。」

佐川 典正議長「放射線被曝についての今までの本会の見解のトーンと矛盾してはいないか。」

岡井 崇副理事長「これは本会が今後もこの問題についてきちんと関わって行く、という宣言のようなもの。
その目的を鮮明にしてホームページに掲載する、ということで良いのではないか。」

海野 信也委員長「ご意見を踏まえて、形式を含めて検討して次回の会議に提出したい。」

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下 俊行委員長)

(1) 会議開催

7月28日第1回男女共同参画・女性の健康週間委員会を開催した。 [資料:男女共同2]

竹下 俊行委員長「委員会では、女性研究者の育成と女性医師の社会貢献状況の紹介などについて議論
された。」

(2) 地方学会担当市民公開講座について [資料:男女共同1]

8) 若手育成委員会 (齋藤 滋委員長欠席につき、金内 優典主務幹事)

(1) 「第5回産婦人科サマースクール in 美ヶ原」

①参加希望者

学部4年	男	0
1名	女	1
学部5年	男	12
41名	女	29
学部6年	男	18
36名	女	18
初期1年	男	45
122名	女	77
初期2年	男	48
140名	女	85
専攻医	男	0
1名	女	2

335

全員を受け入れる方向で準備を進めている。

②プログラム概要 [資料：若手育成委員会1]

(2) 来年のサマースクール会場について

理事会において東北地方での開催希望が出されたので、東北の大学教授ならびにJTBに施設の提案を
依頼し、ホテルメトロポリタン盛岡を候補地として岩手医科大学杉山 徹教授にもご協力頂きながら、

見積等をつめている。[資料：若手育成委員会 2]

なお、会場下見も必要と考えている。

小西 郁生理事長「来年度の会場については、現在と同レベルのものを求めるには無理があるなか、盛岡でどの程度対応が可能かを下見で確認した上で、齋藤 滋委員長と私にご一任頂き、決定したい。」

9) 臨床研究審査委員会 (星 和彦委員長) 特になし

10) 医療安全推進委員会 (岡井 崇委員長)

(1) 日本医師会は「医療事故調査制度の創設に向けた基本的提言について」を取りまとめた。

[資料:医療安全推進 1]

(2) 日本医師会提言関連新聞記事 [資料:医療安全推進 2]

7月14日付 日経新聞記事「全病院に医療事故調 法律家ら外部参加も」

(3) 日本医療安全調査機構より、本会を含む基本領域 19 学会が同機構の社員として参画し、事業推進の一翼を担うよう依頼があった。本会もこれに参加したい。[資料:医療安全推進 3]

岡井 崇副理事長「日本医師会の基本的提言にある第 3 者機関を日本医療安全調査機構がやって行くということである。モデル事業として当初 5 学会で始まったものを拡大して体制を作るもので、産婦人科医療のためには本会もこれに参加することがよいと思う。」

木村 正理事「産婦人科は比較的訴訟が多い科なので、可能ならば本会も役員として参加することを考えてはどうか。」

武谷 雄二監事「基本的には了承するが、日本医療安全調査機構は従来のモデル事業を踏襲するとなっている。このモデル事業に対しては厚労省が多額の財政支援を行っていたにもかかわらずうまくいかず、個人の支えで維持されていた。さらに事業仕分けで補助金が減らされることになり、今まで以上に活動を充実させるとなると、財源をどうするかが問題になるのではないか。」

岡井 崇副理事長「そこを日本医師会が対応する、ということである。」

武谷 雄二監事「国に財源がないので医師会、医学会でやる、ということか。その場合、参加各学会に相応の金銭的負担を求める、ということはないと考えて良いか。」

岡井 崇副理事長「現段階ではその動きはないが、はっきりとしたことは分からない。」

武谷 雄二監事「金銭面でどこまで対応するかは、はっきりした所でまた議論をする必要がある。」

小西 郁生理事長「本会にとって重要な案件なので、岡井 崇副理事長に本件の委員なども含めて対応をお願いしたい。」

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

III. その他

1) 第 65 回学術講演会学術集会長

(1) 7月1日に本会事務局において小西 郁生理事長、岩下 光利常務理事、澤 倫太郎副幹事長、阪埜 浩司幹事、桜田 佳久事務局長、青野 秀雄次長、櫻木 範明第 65 回学術集会長、金内 優典幹事出席のもと、第 65 回日本産科婦人科学会学術講演会運営担当コンベンション会社選定会を行った。

(2) 選定会に出席したのは 3 社であった。

(3) 検討の結果、MA コンベンションコンサルティング、株式会社コングレの 2 社に共同で運営を委託することとした。

特に異議なく、本件は全会一致で承認された。

2) 平成 23 年度諸会議議事録幹事予定表について

本年度の総会、各種理事会・委員会の議事録作成を担当各幹事をお願いしたい。 [資料:その他 1]

3) HPV ワクチンの公費助成について

小西 郁生理事長「HPV ワクチンの公費助成期限が実質 9 月で切れるので、子宮頸がん征圧専門家会議が新聞広告を出す予定だが、本学会もそこに賛同団体として参加することをご了解頂きたい。」

4)利益相反自己申告書について

吉川 裕之理事「COI は一企業と 50 万円以上関係があれば出すようにしないと、個人に責任が行く可能性もあり、また記入の際に迷うこともなくなるように思う。」

小西 郁生理事長「次回から講演料その他を含めて出す方向で進めてもらいたい。」

以上

資 料

1. 平成 23 年度第 1 回常務理事会議事録(案)
2. 平成 23 年度第 2 回常務理事会業務担当理事報告並びに関連協議事項予定内容
- 総務 1：東日本大震災に居住される会員への会費免除について
- 総務 2：東日本大震災 医師派遣経費
- 総務 3-1：「出生前に行われる検査および診断に関する見解」改定に関する補足説明
- 総務 3-2：平成 23 年度定時総会議事録抜粋
- 総務 4：公開シンポジウム次第
- 総務 5：食材中の放射性セシウムについて心配しておられる妊娠・授乳中女性へのご案内
- 総務 6：尿由来ゴナドトロピン製剤へのプリオン蛋白混入の論文報告に対するの対応について
- 総務 7：エリスロポイエチン製剤使用についての本会見解
- 総務 7-1：アンケート調査実施への支援・協力依頼状
- 総務 8：母体保護法の一部を改正する法律の施行について
- 総務 9：平成 23 年度「健やか親子 21 全国大会」の開催 について
- 総務 10-1：塩酸ラベタロール錠の妊産婦への投与についての要望
- 総務 10-2：ニフェジピンの妊娠 20 週以降の妊産婦への投与について
- 総務 11：医薬品・医療機器等安全性情報
- 総務 12：第 2 回日本医学会分科会利益相反会議案内
- 総務 13：利益相反対応の現状アンケート
- 総務 14：日本医学会法人化準備委員会 委員選出のお願い
- 総務 15：「助産所における嘱託医の包括指示による医療行為について」
- 総務 16：アンケート調査依頼
- 総務 17：B 型肝炎ワクチンの添付文書改訂についての要望書
- 総務 18：東日本大震災に伴う予防接種の取扱いについての提言
- 総務 19：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構が行う審査等の手数料について
- 総務 20：重度脳性麻痺児の予後に関する医学的調査報告書の送付
- 総務 21-1：特定健診における禁煙の勧奨・支援のための制度化に関する要望書
- 総務 21-2：ニコチン依存症管理料の算定要件等の見直しならびにニコチン依存症指導料の新設に関する
要望書
- 総務 21-3：すべての医科系大学病院敷地内を全面禁煙とすることの要望書
- 総務 21-4：地方自治体の建物内の喫煙室を撤去し、建物内を全面禁煙とするお願い

総務 21-5：すべての職場を全面禁煙とする労働安全衛生法の改正に関する要望書
総務 21-6：JR6 社あて要望書：新幹線と寝台列車の全面禁煙化とホームを含む駅構内全面禁煙化の再度のお願い
総務 21-7：関西私鉄 4 社あて要望書：特急列車とホームを含む駅構内の全面禁煙化のお願い
会計 1：公益社団法人日本産科婦人科学会 監査予定案
編集 1：平成 23 年度/24 年度 JOGR AE 予定者一覧
渉外 1：第 71 回 FIGO Executive Board Meeting 報告
渉外 2：FIGO に対する本会意見
渉外 2-1：本会意見に対する FIGO 回答
渉外 3：FIGO Award In Recognition of Women Obstetricans/Gynaecologists
渉外 4：FIGO committee for women's sexual & reproductive rights- Medical school curriculum
社保 1：「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の第 2 回開発要望募集」本会からの要望総括表
専門医 1：専門医指導施設への照会
倫理 1：聖マリアンナ医科大学からの登録申請
倫理 2：読売新聞 出生前診断関連連載記事
倫理 2-1：読売新聞 出生前診断関連連載記事
倫理 3：朝日新聞 卵子提供関連新聞記事
広報 1：JSOG-JOBNET 事業報告
広報 2：ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について
広報 3：JSOG ホームページアクセス状況
広報無番：anetis 最新号
医療改革 1：平成 23 年度医療改革アクションプラン
医療改革 2：これからのエネルギー政策の方向性について
男女共同 2：男女共同参画白書 平成 23 年版
男女共同 1：平成 23 年度地方学会担当市民公開講座一覧
若手育成 1：第 5 回産婦人科サマースクールプログラム
若手育成 2：ご宴会お見積書
医療安全推進 1：医療事故調査制度の創設に向けた基本的提言について
医療安全推進 2：日本医師会提言関連新聞記事
医療安全推進 3：日本医療安全調査機構からの入社依頼
その他 1：平成 23 年度諸会議議事録作成幹事予定表

以上